

Sassyのあかちゃんえほん ぱくぱく  
Sassy・DADWAY(監修)/LaZOO(文・イラスト)

いろんな野菜や果物、たまごや牛乳を、どうぶつたちがおいしそうにぱくぱく！

「ごくごく、おいそうだね！」「どれが食べたいかな？」と、親子のコミュニケーションが広がります。たべものどうぶつ、どちらにもSassyのかわいい



「顔」があらわれるので、最後まで赤ちゃんが飽きません！読み聞かせることであかちゃんの「食べたい」が自然に育つ、0歳からの食育にぴったりの一冊。

ピヒュッティ  
PIHOTEK 一北極を風と歩く—  
荻田 泰永/井上 奈奈

「植村直己冒険賞」受賞の極地冒険家、荻田泰永×「世界で最も美しい本コンクール」銀賞受賞の井上奈奈による絵本。

北極をたった一人で歩く“僕”の一日を描く。頬を叩く風、北極での生き方を知る動物たち、空から降りる暗闇、そして……。

北極を歩く“僕”を追体験できる、命と死を感じる美しい絵本。



だれもしらない小さな家  
リナー・クラマー/小宮 由

町の通りに、大きなマンションにはさまれた小さな空き家がありました。いつも窓をのぞいていたアリスとジェーンは、ある日、とうとう足をふみいれます。おうちごっこはクッキーやさんに発展！ところがそこへ大家さんが怒鳴りこんできて……。だれにも見向きもされなかった小さなおうちに、人の温もりと明かりがもどります。



ラビット ホッピング！  
うさぎがぼくのパートナー!?  
マリウ・リウカ/森山標子/きただい えりこ

病気の妹にかかりきりな両親、愛犬との日々を満たされた友達……。

寂しさや羨ましさでがんじがらめだったアルヴィンは、うさぎに、ラビットホッピングにであい、自分の「ジャンプ」をみつけていく。パートナーシップを描く物語。(Amazonより)

## はまでら4つのや図書館

# 2023.11月の新着本より



### こんなかお、できる？

ウィリアム・コール/トミー・ウンゲラー/こみや ゆう

まいばん、なかなか寝ようとしないう女の子。そこで、パパはあるゲームに誘います。

『こんなかお、できる？』女の子は、寝る支度をしながら、かおあそびゲームを楽しみます。

トミー・ウンゲラーがユーモラスに描く、おやすみ前のかおあそび絵本です。



### 笠置シズ子

昭和の日本を彩った「ブギの女王」一代記  
青山 誠

やむにやまれぬ事情で養女として育てられるも、養父母の深い愛情を受け、明るい笑顔と歌の才能で人生を切り拓いていった笠置シズ子。彼女は『東京ブギウギ』や『買物ブギー』など、数多くの楽曲で、敗戦から復興へと進む日本社会を、持ち前の笑顔と歌声で励まし、勇気づけた。再び立ち上がっていく戦後日本のシンボルとなり、一世を風靡した「ブギの女王」はいったい、どんな人物だったのか？彼女の波瀾万丈の一生を追う。

(Amazonより)

### なごり雪 新堂 冬樹

「なごり雪に願い事をすれば叶うって、小学生の頃に読んだ本に書いてあったの」  
トップモデルの海斗の密着取材をするため、スイスを訪れたファッションライターの小野寺古都。季節外れのなごり雪が舞うチューリヒ湖畔で、古都はわざと露悪的に振る舞う海斗の真の姿を探ろうとする。やがて似た者同士の二人は惹かれあうが、幸せも束の間、海斗が交通事故で半身不随となってしまった。死を望む海斗と、生を望む古都。究極の選択を迫られた二人の愛の行方は？

### おしよりん 藤岡 陽子

明治三十八年、福井県麻生津村。増永五左衛門は、この地に農業以外の産業を根づかせるべく苦闘していた。そんな時、大阪へ出稼ぎに出ている弟の幸八が、当時はほとんど普及していなかったがねに着目、村でのめがね製造を提案する。村人たちの猛反対の中、輝く地平を求めて、二人は困難な道を歩み始めるのだった——。「金の角持つ子どもたち」等で注目を集める作家・藤岡陽子の新たな代表作の誕生！

### ジェニーのぼうし

エズラ・ジャック・キーツ/石津ちひろ

ジェニーはおば様から新しいぼうしが届くのをこころ待ちにしていました。

でも、届いたのは思いえがいていたはなやかなぼうしとは、ほどどおいシンプルなおぼうし。ジェニーはしかたなく、そのぼうしをかぶって出かけていきますが、まわりのみんなの素敵なおぼうしが気になって仕方ありません……

エズラ・ジャック・キーツでは珍しく女の子が主人公のお話。かわいいものが大好きな女の子の気持ちがあふれる夢いっぱいのお絵本です。



### ぼくのちいぱっぱ 長江 優子/早川 世詩男

朝おきて、リビングルームにいくと、お母さんとお父さんが、鳥かごを見つめていた。

お母さんの足もとには、空のせんたくかごがたおれている。

お父さんのてのひらには、小鳥用のえさ箱がのっている。

「……チーパは？」

チーパがいなくなった。

その日から、ぼくの〈ヒニチジョウ〉がはじまったんだ。

思いがけない日々のなかで成長していく少年・イタルの物語。

### 琥珀の夏 辻村深月

『かがみの孤城』『傲慢と善良』の著者が描く、瑞々しい子どもたちの日々。そして、痛みと成長。かつて、カルトだと批判を浴びた〈ミライの学校〉の敷地跡から、少女の白骨遺体が見つかった。ニュースを知った弁護士の法子は、胸騒ぎを覚える。埋められていたのは、ミカちゃんではないか——。小学生時代に参加した〈ミライの学校〉の夏合宿で出会ったふたり。法子が最後に参加した夏、ミカは合宿に姿を見せなかった。30年前の記憶の扉が開くとき、幼い日の友情と罪があふれ出す。

### ウォールデン 森の生活 上下

ハリ・D・ソロー/今泉 吉晴

「人は1週間に1日働けば生きていけます」。ヘンリー・D・ソローは、1800年代半ば、ウォールデンの森の家で自然と共に2年2か月間過ごし、自然や人間への洞察に満ちた日記を記し、本書を編みました。邦訳のうち、小学館発行の動物学者・今泉吉晴氏の訳書は、山小屋歴30年という氏の自然の側からの視点で、読みやすく瑞々しい文章に結実。文庫ではさらに注釈を加え、豊富な写真と地図とでソローの足跡を辿れます。産業化が進み始めた時代、どのようにソローが自然の中を歩き、思索を深めたのか。今も私たちに、「どう生きるか」を示唆してくれます。

### 本のない、絵本屋クッタラ

おいしいスープ、置いてます  
標野 凧

札幌にあるインクブルーの三角屋根が目印の、木造二階建て——そこが『本のない、絵本屋クッタラ』だ。看板には『おいしいスープ、置いてます。』と書いてあり、店主・広田奏と共同経営の八木が切り盛りするカフェでもある。メニューはスープセットとコーヒーのみだが、育児に悩んだり、仕事に忙殺されていたり、自分の今の立ち位置に迷った客たちが今日もふらりとやってくる。彼らの話には奏は静かに耳を傾けると、「御本が揃いましたらご連絡いたします」と告げる。そうして客はもう一度、店を訪れるのだ。奏のセレクトする絵本は時に意外で、時に温かく、時に一読しただけではわからない秘密をもっている……。そんな奏がこの店を開いた理由とは——？ 季節のスープと登場する絵本に心が躍る、「今宵も喫茶ドードーのキッチンで。」の標野凧が贈る、ほっとひと息つける連作短編集。